

伊東市総合計画 第6回 未来ビジョン会議

グループディスカッション <結果概要>

〈開催日時〉 2019年11月6日(水) 19:00~20:30 (グループごと解散)

〈会場〉 健康福祉センター 2階大ホール

〈参加者〉 未来ビジョン会議委員 18人

〈テーマ〉 伊東市の将来像を描く

〈意見交換の内容〉

テーマ「将来像実現のための手法を考える」では、下記にある各グループのテーマにあわせて、将来像を実現するために必要な取組、施策について意見交換するとともに、将来像実現のために自分自身がやってみたい活動や取組についても意見交換しました。意見概要については次頁のとおり。

グループ1	グループ2	グループ3	グループ4
テーマ1 医療、健康、福祉分野	テーマ2 都市、中心市街地、環境分野	テーマ3 教育、歴史、文化分野	テーマ4 観光、農林、水産、商工分野
5人	5人	4人(1人欠席)	4人(1人欠席)



グループ1 医療・健康・福祉分野

■将来像を実現するために必要な取組、施策（行政主体）

○医療

- ・医療に関する情報を一元化し、コンシェルジュを設置する（窓口の一本化）
- ・行政情報総合アプリの開発する（課ごとではなく、困りごとで検索）

○健康

- ・予防医療に積極的に取り組む
- ・検診に特典をつけるなど、受診率アップを図る
- ・伊東市ならではの、温泉を活用した健康づくりプログラムをつくる

○子育て

- ・フィンランドのネウボラのように、継続的な支援制度を設ける
- ・子どもに直接開かれた窓口を開設する

○障がい者、高齢福祉

- ・（回覧板のような）訪問型のアウトリーチ支援を積極的に行う
- ・介護世代の就労や環境の改善のために、託老所を開設する
- ・申請主義ではなく、情報弱者に優しいシステムづくり

■自分自身がやってみたい活動

（市民が主体、市民と行政の連携による活動）

○医療

- ・宅配業者や電力会社など民間企業の協力のもと、高齢者の見守りを行う

○健康

- ・地域ぐるみで健康づくりに取り組む（見守りにもつながる）
- ・銭湯を活用したコミュニティづくり（子育て世代と高齢者世代の交流）

○子育て

- ・空き家を利用した居場所、情報交換の場づくり

○障がい者、高齢福祉

- ・インターネットを活用したボランティア登録など、誰もが気軽にボランティアに参加できる仕組みをつくる



グループ2 都市、中心市街地、環境分野

■ 将来像を実現するために必要な取組、施策（行政主体）

○都市

（土地利用・交通の理想実現のために）

- ・空き家バンクを運営する
- ・農地も一般人が借りられる、買えるようにする
- ・新幹線が停まるようにする
- ・企業誘致のための固定資産税を免除する
- ・バス・タクシー・電車で利用できる伊東市民パスを作り、公共交通をキャッシュレスで利用できるようにする
- ・市が市民割引のあるバス路線を企画し、運営は民間事業者へ委託する。
- ・公園を整備する

○中心市街地

（中心市街地の理想実現のために）

- ・各団体を一本化（集約）する
- ・ウォーキングコースを再整備する
- ・第三セクターや指定管理者制度を利用する

○環境

（住環境・防災の理想実現のために）

- ・避難所を充実させる
- ・防災センター、同報無線、避難車両を整備する
- ・消防署の定期的な訓練、講習会を地域ごとに行う
- ・ごみ収集箱（倉庫等）を設置する

■ 自分自身がやってみたい活動

（市民が主体、市民と行政の連携による活動）

○都市

（土地利用・交通の理想実現のために）

- ・各町内会と連携して街路灯を設置する
- ・専門学校を誘致する
- ・買い物難民を救済するシステムを作る（移動スーパーや病院等へのシャトルバス）
- ・伊東モノレールを開通する

○中心市街地

（中心市街地の理想実現のために）

- ・他業種との連携を図る
- ・食事・温泉・交通・旅館と観光施設のコラボ
- ・オープンマルシェや夜市を行う

○環境

（住環境・防災の理想実現のために）

- ・自警団の力をつけ避難しやすい環境を作る
- ・ごみ収集場所の維持管理を行う
- ・ごみ分別を推進する



グループ3 教育、歴史、文化分野

■将来像を実現するために必要な取組、 施策（行政主体）

○教育

“子どもがすこやかに育つまち”

- ・スクールカウンセラーの支援者を増やす
- ・幼、保で子供が自主的に話せるような環境整備を行う

“IoT 教育最先端のまち”

- ・児童用タブレット、校内無線 LAN の整備

“若者が意見を言えるまち”

- ・新構想高校への積極的介入！
- ・若者の意見を言える場作り
- ・学生の意見をくみ上げやすい部署を設立、NPO の活動を行政が支援する

○歴史文化

“文化的な発表のできるまち”

- ・歴史、文化、教育への環境作り(学校教育に組み込む)地域教育
- ・音響や舞台設備のしっかりしたホールを整備する(→外部から人が集まる)

○スポーツ

“合宿の聖地”

- ・スポーツ施設の充実(グラウンド、体育館、合宿場等)
- ・中高連携型のスポーツ活動の実施
- ・クロスカントリーコースを作る

■自分自身がやってみたい活動

(市民が主体、市民と行政の連携による活動)

○教育（地域の人たちが協力する教育環境づくり）

- ・絵本の読み聞かせ
- ・キャリア教育
- ・部活指導、校外学習等の(外部支援員)協力
- ・より実践的な職業体験の場を提供する
- ・外部から未来創造できる、講師を呼んでくる

○歴史文化

- ・伊東がテーマの本、紙芝居等を学生が作る→下の子供たちへ読み聞かせ
- ・祭りや文化を継承する

○スポーツ

- ・スポーツ施設に働き先として就職
- ・スポーツ施設の積極的利用
- ・市民団体が情報教育等、出前授業を行う
- ・心、体のケア



グループ4 観光、農林、水産、商工分野

■ 将来像を実現するために必要な取組、施策（行政主体）

○観光

- ・“伊東”の名を外で使っていく
- ・外国の映画撮影サポート
- ・SNS専従で専門技術のあるスタッフ
- ・姉妹都市を増やす
- ・バカバカしい面白いイベントを開催すべき
- ・職員がもっと各地のイベントを勉強すべき

○農林水産

- ・東京の大学と連携して農林水産の従事者を増やす
- ・稚魚放流の補助金をふやしてほしい
- ・移住者増につなげたい
- ・若い人が漁業に就職できるように

○商工

- ・空店舗を店舗として活用する
- ・商工は観光産業として進めるべき
- ・伊豆高原のブランド力を高めるべき
- ・気軽に商業をはじめられるようなきっかけづくり
- ・シャッターへの(空店舗)アート作り

■ 自分自身がやってみたい活動

(市民が主体、市民と行政の連携による活動)

○観光

- ・スポーツ的な観光イベントの開催
- ・マルシェ(開催中)
- ・東京の大学と連携したアートイベント(開催中)



